

青少年国際平和未来会議 2025 平和学習プログラム実施業務に係る
公募型プロポーザル実施について

公募型プロポーザル方式により契約の相手方を選定するため、次のとおり企画提案書を公募します。なお、本公募は青少年国際平和未来会議実行委員会の令和7年度当初予算成立後、速やかに業務を開始できるようにするため、当初予算成立前に募集の手続きを行うものです。受託者の決定や予算の執行は、令和7年度当初予算の成立が前提であり、今後、内容等が変更になることもありますので、あらかじめ御了承ください。

令和7年2月18日

青少年国際平和未来会議実行委員会事務局長

1 業務内容

(1) 業務名

青少年国際平和未来会議 2025 平和学習プログラム実施業務

(2) 委託期間

契約締結日から令和7年8月29日（金）まで

(3) 業務内容

別紙「青少年国際平和未来会議 2025 平和学習プログラム実施業務基本仕様書」のとおり

(4) 本業務にかかる費用

本業務の委託限度額は、35万円（消費税及び地方消費税の額を含む。）以内とする。

(5) 発注者

〒730-8586 広島市中区国泰寺町一丁目6番34号

青少年国際平和未来会議実行委員会事務局

（広島市こども未来局こども青少年支援部内）

TEL 082-504-2963 E-Mail ikusei@city.hiroshima.lg.jp

2 参加資格

参加する者は、次に掲げる要件の全てを満たすものとする。

- (1) 地方自治法施行令（昭和22年5月3日政令第16号）第167条の4及び広島市契約規則（昭和39年4月1日規則第28号）第2条の規定に該当していない者であること。
- (2) 納税義務者にあつては、広島市税並びに消費税及び地方消費税を滞納していない者であること。
- (3) 公募の日から受託候補者の特定までの間のいずれの日においても、営業停止処分又は

広島市の指名停止措置若しくは競争入札資格の取り消しを受けていないこと。

3 企画提案書等の提出

- (1) 提出書類 企画提案書（様式1）、参考見積書（提案内容を踏まえたもの）
- (2) 提出期限 令和7年3月21日（金）正午
- (3) 提出方法 電子メールにより1(5)に提出

4 審査について

- (1) 審査日 令和7年3月25日（火）
- (2) 審査方法

企画提案書の審査は青少年国際平和未来会議実行委員により、別紙審査基準表による書類審査を経て、最も優れた提案を行ったと認められる事業者を選定する。

- (3) 審査結果・公表

審査結果は、参加者全員に対して速やかに電子メールにて通知する。また、発送後、審査結果を広島市ホームページに掲載し、公表する。

- (4) その他

審査結果に関する一切の事項についての質問、説明請求、意見等は受け付けないものとする。

5 その他

- (1) 提出された書類の作成等に要した費用は、提案者の負担とする。
- (2) 提出された書類は返却しないものとする。
- (3) 本業務の実施に当たり疑義等が生じた場合は、速やかに発注者と協議の上、必要な措置を講じるものとする。
- (4) 企画提案の選定後、提案者と協議の上、企画提案の内容に変更を加える場合、委託料の額を調整することがある。

6 問合せ先

1(5)に同じ

青少年国際平和未来会議 2025 平和学習プログラム実施業務 審査基準

評価項目	提案内容の評価基準		配点	
1 業務体制、類似事例及び業務スケジュールの内容				
(1)業務体制	1-1	当業務を確実に履行し、トラブルに対応できる体制となっているか。	10	
(2)類似事業等に関する業務実績	1-2	当業務を遂行するための知見、ノウハウを有しているか。	10	
(3)業務スケジュール	1-3	当業務を確実に履行できるスケジュールとなっているか。	10	
2 企画提案の内容				
(1)実施方針等	2-1	業務の趣旨を理解した実施方針となっているか。	10	
(2)平和学習プログラムの開催	2-2	効果的で、実現性がある提案内容か。	10	
合計				

青少年国際平和未来会議 2025 平和学習プログラム実施業務基本仕様書

1 業務名

青少年国際平和未来会議 2025 平和学習プログラム実施業務

2 業務の目的

青少年国際平和未来会議 2025 は、令和 7 年 8 月 1 日から 9 日までの間に広島市の姉妹・友好都市等や世界の国々の青少年と本市の青少年が互いに世界平和について考え、意見を交換し合うことにより、友情と相互理解を深めると共に、広く世界の国々の青少年に核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を願う「ヒロシマの心」を伝え、次代を担う青少年の世界平和への意識を高めることにより、グローバル人材の育成を図ることを目指すものであり、被爆 80 周年記念事業と位置付けている。

本業務は、この青少年国際平和未来会議の趣旨を踏まえ、参加する青少年の世界平和への意識の平準化を図ることを目的に、全体プログラムの一環として、同年 8 月 3 日に平和学習プログラムを実施するものである。

3 委託期間

契約締結日から令和 7 年 8 月 29 日（金）まで

4 業務内容

(1) 開催場所

広島市平和記念公園及びその周辺

(2) 開催日時

令和 7 年 8 月 3 日（日）10 時から 17 時

（途中 1 時間の昼食休憩を予定。時間は調整可。）

(3) 対象者

高校生相当年齢から 25 歳までの青少年 80 名（うち 60 名は海外参加者）（予定）

(4) プログラムの内容

青少年国際平和未来会議において、参加者が世界平和について討論し、その実現に向けた取組を進めていくことを「ヒロシマアピール」に取りまとめることから、その前段階として効果的な平和学習プログラムを実施する。

以下のア～ウを含むこととし、全て英語で行う。なお、11:00～17:00 は平和記念資料館内の会議室を利用可能である。

ア 平和記念資料館見学

①常設展示料金は資料館学芸課にて減免手続きを行うこと。

②海外参加者は音声ガイド（350 円／台）を使用すること。

イ 被爆体験講話または被爆体験伝承講話（調整含む）

ウ ア、イの振り返り（意見交換、グループワーク、ワークショップ等）

①核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を願う「ヒロシマの心」を伝えるもの。

②翌日（8 月 4 日）から 2 日間にわたり「ヒロシマアピール」作成に向けてディスカッション

ョンを行う予定である。

(4) 特記事項

ア 本業務に係る発注者との打合わせは、業務着手時やプログラム実施前のほか、適宜かつ十分に行い、円滑な業務実施に努めること。

イ プログラム実施後は、開催場所の現状復旧を行うこと。

ウ プログラム実施に伴う開催場所の使用許可等の手続きについては、開催場所の各管理者に対し適切に、受託者自ら使用許可申請を行い、その許可を得た上で、必要な料金等を納入することを原則とする。

エ 本業務を実施するに当たり必要な経費は受託者の負担とすること。

オ 本業務において、宗教・政治を目的とする活動は行わないこと。

5 実施報告等

(1) 実施計画書

契約締結後、速やかに実施計画書を作成し、発注者の承認を得ること。

(2) 実施報告書

業務終了後、実施報告を行うこと。

6 留意事項

(1) 関係法令・条例等を遵守すること。

(2) 広島市個人情報保護条例を遵守の上、個人情報の取扱いについては細心の注意を払うこと。
また、本業務に従事する者については、事前に守秘義務の遵守を徹底すること。本業務終了後も同様とする。

(3) 本業務の実施に際し、発注者に提出された実施報告等の権利は、全て発注者に帰属するものとし、発注者の承認を得ずして公表、貸与、使用等をしてはならない。

(4) 本業務の実施に際し、第三者に与えた損害は受託者の責任において処理すること。

(5) 本仕様書の内容に疑義が生じた場合又は本仕様書に定めのない事項については、その都度、発注者及び受託者が協議の上、定めるものとし、協議後は受託者が協議録を作成し、発注者に提出すること。

7 参考

(1) 別紙1「青少年国際平和未来会議(IYCPF)2025 ヒロシマ」について

(2) 別紙2「ヒロシマアピール 2024」

(3) 青少年国際平和未来会議 2024 ディスカッションテーマ

1 日目 “What is the Youth?”

2 日目 “What are the challenges?”

3 日目 “What you can do? What you should do?”

(4) 青少年国際平和未来会議 2024 紹介動画（二次元コード）



(被爆80周年記念事業)「青少年国際平和未来会議(IYCPF)2025ヒロシマ」について

1 目的

広島市の姉妹・友好都市等や世界の国々の青少年と本市の青少年が互いに世界平和について考え、意見を交換し合うことにより、友情と相互理解を深める。また、広く世界の国々の青少年に核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を願う「ヒロシマの心」を伝え、次代を担う青少年の世界平和への意識を高めることにより、グローバル人材の育成を図っていく。

なお、この会議は、被爆60周年を迎えた平成17年(2005年)に、第1回目を本市で開催して以来、本市と姉妹・友好都市等が概ね交互に開催しており、被爆80周年を迎える令和7年度は、今年度に引き続き、広島市で開催する。

2 内容等

(1) 主催 青少年国際平和未来会議実行委員会

(構成：広島市、一般社団法人広島ハノーバー友好協会、公益財団法人広島平和文化センター 外)

(2) 日程

日程	主な活動内容	宿泊
8月1日(金)	海外都市広島到着(出迎え)	似島歓迎交流センター
8月2日(土)	交流プログラム(オリエンテーション、都市プレゼンテーション 外)、歓迎パーティー(バーベキュー、キャンプファイヤー)	
8月3日(日)	平和学習プログラム(平和記念資料館見学、被爆体験講話の聴講 外)	広島市 国際青年会館
8月4日(月)	グループ討論、お好み焼き体験・広島駅(ミナモト)見学	
8月5日(火)	グループ討論、全体討論(ヒロシマアピール作成)、映像資料等制作	
8月6日(水)	平和記念式典参列、IYCPF 20周年記念行事(ヒロシマアピール発表、各国大使等との意見交換、未来大使委嘱 外)、人道イニシアティブに関するシンポジウム、とうろう流し	
8月7日(木)	映像資料等制作、宮島訪問	
8月8日(金)	映像資料等制作、高校部活動体験、フェアウェルパーティー	(ホームステイ)
8月9日(土)	海外都市広島出発(見送り)／ホームステイ(希望者のみ ～8/10)	

(3) 参加者 80名(予定)

広島市の青少年・OB 20名程度(青少年20名程度、OB 若干名)

姉妹・友好都市等の青少年・指導者・OB 60名程度(青少年50名、指導者・OB 10名)

Hiroshima Appeal 2024

In a world where conflicts still happen, it's more important than ever that young people work together to achieve peace.

In Hiroshima, 25 young people from seven different cities from around the world gathered for nine days. We talked about peace and learned from each other. We are the 2024 International Youth Conference for Peace in the Future (IYCPF).

We visited the Hiroshima Peace Memorial Park and Museum. There we learned about the tragic effects of the atomic bomb and the importance of peace. We gathered in group discussions where we talked about the challenges of peace and shared ideas on how to create a more peaceful world. We held workshops where we created action plans, and we spent time getting to know each other's cultures.

As we discussed, we agreed that the basic needs of peace—safety, food, and stability—are threatened by global challenges: conflicts, environmental problems, population problems, lack of knowledge, and extremism causing disruption to sustainability.

During wars such as the Ukrainian-Russian and Palestinian-Israeli, people suffer and are forced to part with their families. When the people lack even the basic needs to survive—shelter, security, and sustenance—how can we expect them to contribute to peace?

We noticed the population issue. As societies age, they lose their labor force, leading to decreased sustainability. Similarly, overpopulation in some parts of the world results in food shortages, endangering the basic needs of peace. With society lagging and people starving, how can we expect peace? These pressures are often worsened by immigration challenges, as people flee from conflicts or economic hardship, straining the infrastructure and resources of host countries. With societies struggling to provide for their citizens, dealing with the complexities of immigration, and people going hungry, how can we hope for peace to flourish?

Additionally, over-consumption across the globe is causing widespread pollution. Clean water is disappearing, air quality is declining, and the sea is being burdened with waste. When the environment is degraded and resources are depleted, how can we expect to sustain peace?

What's more, the lack of access to quality education leaves millions without the knowledge

and skills needed to succeed. In regions plagued by poverty and conflicts, children are often deprived of the opportunity to learn. Without education, people are vulnerable to manipulation, unable to advocate for their rights, and less likely to contribute positively to society. How can we expect a peaceful and prosperous future when so many are deprived of the tools they need to succeed?

We noticed that social inequality and misinformation fueled extremism. It is undermining global security. When divisions deepen and trust erodes, how can we build a peaceful and secure world?

As a result of our questions and discussions, we have concluded that education is the key to knowledge and communication. It is a powerful tool that could create positive change, that is why such a tool should be accessible for the public. Knowledge is not just gained inside the classroom, but also through participating and active engagement in the community. Having cheap and easy access to knowledge is a human right, and education should be open to everyone.

We are young people from China, Germany, Iran, Japan, the Philippines, and South Korea. Many countries and governments are causing war, encouraging war, or supporting war with weapons. What can we, as the youth, do that is different? We have chosen communication and understanding instead of violence. We have pledged to actively work for peace in the future, and we are willing to demand this from others.

Despite cultural differences, a bond has been formed through various perspectives, stories, and experiences. We have achieved a global vision through communication. We found solutions to the five challenges. We should all come together with our own pieces to create a global peace.

August 13th, 2024

ヒロシマアピール 2024

世界ではいまだに紛争が生じている中、若者が平和を達成するために共に協力していくことが今まで以上に重要となっています。

広島のに、世界7都市から25人の若者が集まり、9日間を共に過ごしました。私たちは平和について話し、お互いから学び合いました。私たちは青少年国際平和未来会議2024です。

私たちは広島平和記念公園と資料館を訪れました。そこで原子爆弾の悲惨な影響と平和の大切さについて学びました。グループディスカッションでは平和への道のりに困難となるものは何かについて議論し、より平和な世界を作る方法についてアイデアを共有しました。アクションプランを作成するワークショップを行い、時間をかけてお互いの文化についても理解を深めました。

議論をする中で、平和のために基本的に必要なこと ―安全、食料、安定― が世界的な問題により脅かされているということについて、意見が一致しました。その問題とは、維持可能性の中断を招く、紛争、環境問題、人口問題、知識不足、過激主義です。

ウクライナ・ロシア間、パレスチナ・イスラエル間のような戦争の間、人々は苦しみ、家族と離れ離れにさせられてしまいます。人々が生きていくために基本的に必要なもの―住居、安全、生計―でさえも失ってしまったら、彼らに平和に貢献するよう期待することができるでしょうか。

私たちは人口問題に目を向けました。社会が高齢化すると、労働力を失い、持続可能性が低下します。同様に、世界のいくつかの地域における人口超過の結果、食糧は不足し、平和への基本的な需要を脅かしています。社会が停滞し、人々が飢えに苦しむ中、平和を期待することはできるでしょうか。これらの圧力はしばしば移民問題によって状況が悪化することが多々あります。人々が紛争や経済的困難から逃れてくると、受け入れ国のインフラや資源に負担がかかることとなります。自国民に対する提供に苦勞する社会において、移民問題が加わり、人々はさらに飢えに苦しむ、そのような中で平和の繁栄を望むことができるでしょうか。

さらに、世界規模での過度の消費は広範囲に及び汚染の原因となっています。きれいな水が消え、大気の質が悪化し、海はゴミでいっぱいになっています。環境が悪化し、資源が使い果たされる状況で、平和の維持を期待できるでしょうか。

さらに、質の良い教育の不足により、何百万人もの人々は、成功するために必要な知識や技術を持ってないままとなっています。貧困や紛争で苦しむ地域では、子供たちはしばしば学ぶ機会を奪われています。教育が無ければ、人々は操作されやすくなり、自分たちの権利を守ることができず、社会に積極的に貢献することはできないでしょう。こんなにも多くの人々が、成功するために必要なツールを奪われた状況で、平和的で繁栄した未来を期待することができませんか。

社会的に不平等と誤情報が過激主義をあおっていることに気づきました。それは世界の安全を害しています。分断が深まり、信頼が侵害される時、平和で安全な世界を構築することができませんか。

以上の疑問やディスカッションの結果として、私たちは、教育が知識やコミュニケーションの鍵であるという結論に至りました。教育は、良い変化を生み出す強力なツールであり、だからこそ、そのようなツールは全ての人にとって手に入るものであるべきです。知識は教室の中だけで得られるものではありません。地域社会に参加し、積極的に関わることを通じて得ることもできます。知識を安価に簡単に得られるようにすることは人間の権利であり、教育は全ての人に開かれたものであるべきです。

私たちは、中国、ドイツ、イラン、日本、フィリピン、韓国の青少年です。多くの国や政府が、戦争を引き起こしたり、戦争を促したり、武器で戦争を支援しています。青少年として、私たちはどのような異なる行動をとれるでしょうか。私たちは、暴力ではなく、コミュニケーションと理解という方法を選びました。私たちは未来の平和のために積極的に取り組むことを誓います。そしてこのことを他の人にも求めたいと思います。

文化の違いはありますが、様々な観点、話、経験を通じてきずなが形成されました。私たちはコミュニケーションを通じて世界的なビジョンを獲得しました。私たちは5つの問題に対して解決策を見つけました。私たちは一人一人のピースを集め、共に世界のピースを作っていかなければいけません。

(様式 1)

提案
No.

事務局使用欄

青少年国際平和未来会議 2025 平和学習プログラム実施業務

委託業者選定公募型プロポーザル提案書

(提 案 者)

住所（所在地）：

商号又は名称：

代表者職氏名：

(連絡担当者)

担当者：

電 話：

E-mail：

1 業務体制、類似事例及び業務スケジュールの内容

(1)ー1 業務体制:命令系統

業務体制について、業務に関わる人員や命令系統を分かりやすく記載してください。(フロー図等で示しても可)
プログラム開催当日に想定されるトラブルと、その対応について記載してください。

(注) 再委託先がある場合は、業務分担も含め、併せて記載してください。

(1)ー2 業務体制:従事予定者

役割	氏名	所属・職名	担当業務
(例) 責任者			
(例) 主担当者			
(例) 担当者			

(注) 主担当となる方が分かるように記載してください。

(1)ー3 業務体制:業務分担 (再委託先がある場合に記載してください。)

分担する業務	業務分担者 (再委託先)	分担する理由

(注) 再委託先が複数ある場合は、適宜区分してください。

(様式 1)

提案
No.

事務局使用欄

(2)ー 1 類似業務の実績

完了した類似業務の実績（過去 5 年間）を最大 3 件まで、概要や人数規模等の実績を業務ごとにそれぞれ、1～3 に記載してください。（国又は地方公共団体発注以外の実績も含み、受注区分は問わない。）

業務名		発注者	契約金額	履行期間	受注区分	業務内容・成果
1	平和学習プログラム関連業務					
2						
3						

(注) ・受注区分欄には元請け、下請け、自主企画等を記入し、実際に請け負った業務を業務内容欄に記入してください。

(2)ー2 実施能力

(1)、(2)ー1を踏まえ、実施能力（幅広い知見、情報収集能力、協力体制など）について記載してください。

(3) 業務スケジュール

プログラム当日までの業務スケジュールを分かりやすく記載してください。

2 企画提案の内容

(1) 実施方針等について

業務の趣旨を踏まえ、実施方針とその内容について詳しく記載してください。

(2) 平和学習プログラムの開催について

平和学習プログラムの開催について具体的に提案してください。

- 1 当日のタイムスケジュール、会場
- 2 プログラムの運用体制（対応人数）、内容、進行方法等

(注意事項)

- ・ 本提案書内には、応募者名を記載しないでください。（再委託先、技術者名は除く。）応募者名が記載されている場合は、事務局で該当部分を抹消します。
- ・ 図、写真等を使用しても構いません。